

Management Club Report

Aug.2017/Vol.176

Monthly Opinion 《人生を賭けるに値する職場》

歯科医院を開業し経営している歯科医師の方は、ほぼ全員がその仕事と歯科医院の発展に人生を賭けていると思います。もし、現在の歯科医院経営を「趣味でやっている」と答えたり「他に無いのでとりあえず歯医者をやっている」と語ったりする人がいたら一度お話を聴いて見たいと思いますが、まずそういう人はいないでしょう。

今月考えてみたいと思いますのは、スタッフの人たちの心情についてです。

「あなたは今の仕事を一生の仕事にしていきたいと考えていますか」

「あなたは今勤めている職場に、自分の人生を賭けようと思っていますか」

歯科医院に限らず、どのような職場であっても、従業員全員にこの質問を行った場合、Yesと答える割合はそう高くないかもしれません。

仕事に対しては資格や興味という要素が強いと思いますので、かなり高い割合でのYesが期待できますが、職場に対してはどうでしょうか。前問にYesと答えた人でもここではNoと答える人が半分はいそうです。

ここが問題です。この両方の質問にYesと答えるスタッフの割合を増やすことができないようでは歯科医院を経営する資格がないのではないのでしょうか。何故なら、気持ちの入らないスタッフや、いやいや働いているスタッフに対応される受診者は口腔内の改善に向けて気持ちを高めることはないからです。

院長は、スタッフ教育を言うのであれば、勤務態度や言葉遣いを問題視する前に、スタッフが「歯科医療に携わる仕事を一生の仕事にしたい」と思えるようにすることが第一でしょうし、「この職場に人生を賭けよう」という気持ちを醸成することがなければならぬでしょう。前者は歯科医師として、後者は経営者としての当然の責務であると思います。

1

チームワークの強化は“絆”を強める工夫から

歯科医院の社歌を勝手に作ってしまった

厚かましいにも程があるとはこのようなことを指すのかもしれませんが。頼まれもしないのに、ある歯科医院の“社歌”を勝手に作っては、院内研修のときに披露するというを最近行いました。

一番では、開業地に対する愛着を謳い、かかる地に集う我等の理想輝けりとし、